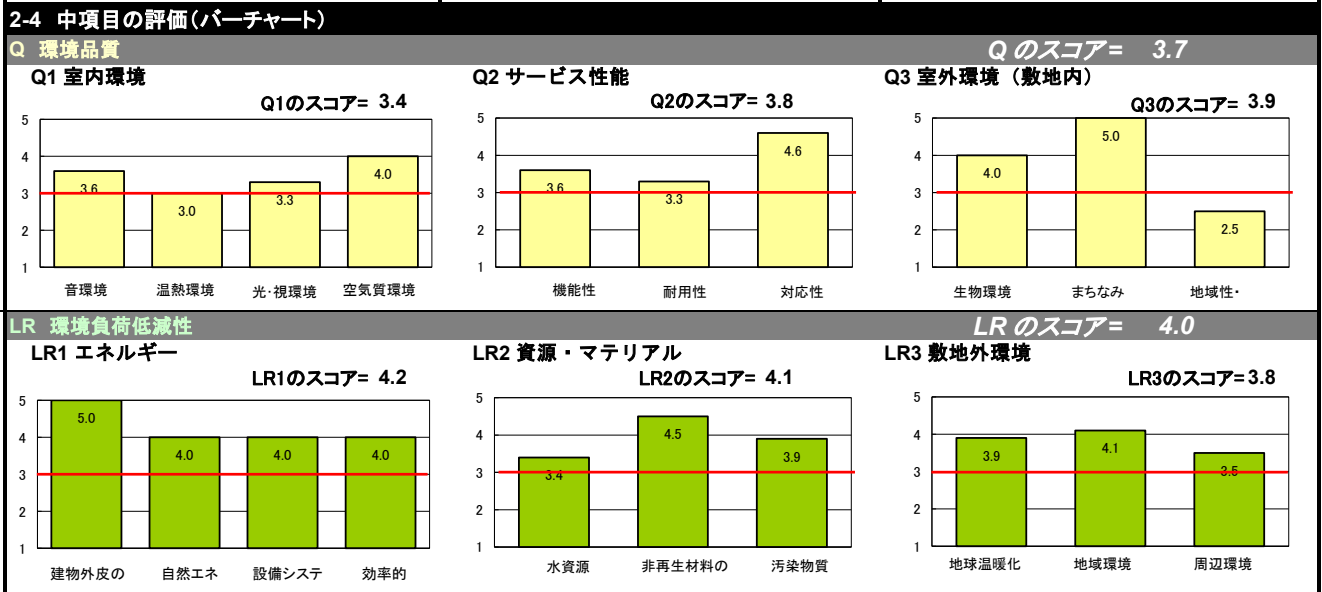
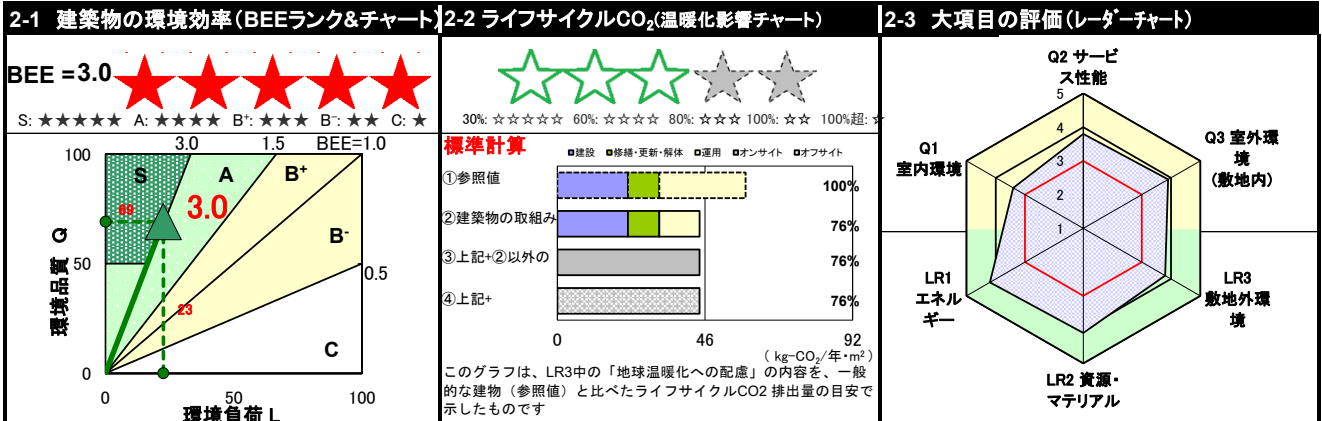


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)本牧物流センター(西)新築工事	階数	地上5F
建設地	横浜市中区錦町38番8号	構造	RC造
用途地域	工業専用地域、22条区域	平均居住人員	600 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場、	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2028年2月 予定	評価の実施日	2025年10月8日
敷地面積	113,545 m ²	作成者	東急建設株式会社
建築面積	52,519 m ²	確認日	
延床面積	258,519 m ²	確認者	



3 設計上の配慮事項		
総合		
耐用年数の長い材料の使用、更新のしやすさを考慮したゆとりある階高、平面空間、設備配管スペースを確保、及び節水機器の積極的採用により環境に配慮した計画とした。		その他 既存樹木を活かした植栽計画とし、周辺環境に配慮した計画とした。
Q1 室内環境 開口部遮音性能T-2以上 F★★★★★建材を全面的に採用している。	Q2 サービス性能 空調ダクトにガルバリウムダクトなど長寿命化を図っている。 電気配線において、構造部材・仕上材を痛めることなく配線の更新・修繕可能。	Q3 室外環境(敷地内) ・緑化計画において、自生種の保全に配慮した緑地づくりを行っている。 ・景観への配慮において、植栽により、良好な景観を形成している。
LR1 エネルギー ・外皮性能 [BPI][BPI _m] ≤ 0.80 ・自然エネルギーの使用において、換気利用2方向以上の開口を設けている。	LR2 資源・マテリアル ・節水型水栓や節水型便器などを積極的に用いている。 ・構造耐力上主要な部分にリサイクル資材を用いている。	LR3 敷地外環境 ・LCCO ₂ 排出率77% ・交通負荷抑制において管理用車両や荷捌き車両の駐車施設の確保した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される



4 横浜市重点項目についての環境配慮概要

<非住宅>

受付日 2025年10月10日

各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。

建物名称 (仮称)本牧物流センター(西)新築工事

建築物の省エネルギー性能 (E) Energy Saving

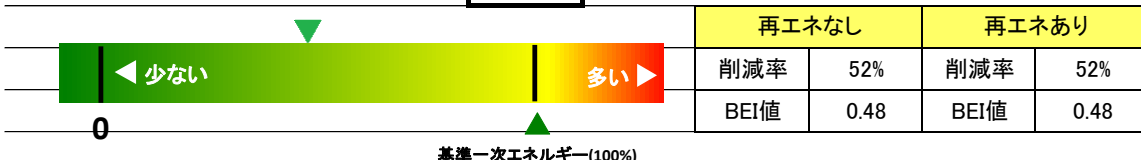
重点項目への取組(5点満点)

【省エネルギー性能】

4

■省エネルギー性能

この建物の設計一次エネルギー消費量 52 %削減



■エネルギー対策 (①建物外皮の熱負荷抑制 ②自然エネルギー利用 ③設備システムの高効率化 ④効率的運用)

① $[BPI][BPI_m] \leq 0.80$

② 換気利用2方向以上の開口を設けている。

③ $[BEI][BEI_m]=0.5$ かつ $[BEI^*][BEI_m^*] \leq 0.5$

④ システムの性能の評価が行える

健康・快適な職住環境 (W) Smart Wellness Community

重点項目への取組(5点満点)

【快適・働きやすさ】

3

■室内環境対策 (⑨温熱環境対策 ⑩光環境 ⑪空気質環境)

⑩ $2.5\% \leq [\text{昼光率}]$

⑪ 建築基準法を満たしており、かつF☆☆☆☆建材を全面的に採用している。

■機能性対策 (⑫機能性 ⑬知的生産性向上の取組)

⑫ 1人当たりの執務スペースが9㎡以上

■室外環境(敷地内)対策 (⑭敷地内温熱環境の向上)

防災への配慮 (R) Resilience

重点項目への取組(5点満点)

【防 災】

3

■耐用性・信頼性 (⑮耐震・免震 ⑯部品・部材の耐用年数向上 ⑰信頼性)

⑮ 外壁仕上補修必要間隔20年～30年

⑰ 配管の系統を区分し災害時の使用不能部分の低減を図っている。

地域・まちづくりへの貢献 (T) Township & Townscape

重点項目への取組(5点満点)

【地域・まちづくり】

4

■室外環境(敷地内)対策 (⑱生物環境 ⑲まちなみ・景観 ⑳地域性への配慮)

⑱ 自生種の保全に配慮した緑地づくりを行っている。

⑲ 植栽により、良好な景観を形成している。

太陽光発電などの導入

環境配慮技術の導入

(太陽光・熱利用、エネルギーマネジメントシステム以外)

木材利用 ・

エネルギーマネジメントシステム導入



CASBEE横浜2025年版v1.0

(仮称)本牧物流センター(西)新築工事

バージョン CASBEE横浜2025年版v1.0

スコアシート		重点項目		建物全体・共用部		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		<非住宅>	<集合住宅>	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質				-	-	-	-	3.7
Q1 室内環境				-	0.30	-	-	3.4
1 音環境				3.6	0.15	-	-	3.6
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.40	-	-	-
1.2 遮音				4.2	0.40	-	-	-
1 開口部遮音性能				5.0	0.60	-	-	-
2 界壁遮音性能				3.0	0.40	-	-	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	-	-	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	-	-	-
1.3 吸音				4.0	0.20	-	-	-
2 温熱環境				3.0	0.35	-	-	3.0
2.1 室温制御				3.0	0.50	-	-	-
1 室温	快適・働きやすさ	健康・安心	⑨温熱環境	3.0	0.38	-	-	-
2 外皮性能	快適・働きやすさ	健康・安心	⑨温熱環境 ⑤外皮性能	3.0	0.25	-	-	-
3 ゾーン別制御性	快適・働きやすさ		⑨温熱環境	3.0	0.38	-	-	-
2.2 湿度制御	快適・働きやすさ		⑨温熱環境	3.0	0.20	-	-	-
2.3 空調方式	快適・働きやすさ		⑨温熱環境	3.0	0.30	-	-	-
3 光・視環境				3.3	0.25	-	-	3.3
3.1 昼光利用				4.2	0.30	-	-	-
1 昼光率	快適・働きやすさ		⑩光環境	5.0	0.60	-	-	-
2 方位別開口	快適・働きやすさ		⑩光環境	-	-	-	-	-
3 昼光利用設備	快適・働きやすさ		⑩光環境	3.0	0.40	-	-	-
3.2 グレア対策				3.0	0.30	-	-	-
1 昼光制御	快適・働きやすさ		⑩光環境	3.0	1.00	-	-	-
3.3 照度	快適・働きやすさ		⑩光環境	3.0	0.15	-	-	-
3.4 照明制御	快適・働きやすさ		⑩光環境	3.0	0.25	-	-	-
4 空気質環境				4.0	0.25	-	-	4.0
4.1 発生源対策				5.0	0.50	-	-	-
1 化学汚染物質	快適・働きやすさ		⑪空気質環境	5.0	1.00	-	-	-
4.2 換気				3.0	0.30	-	-	-
1 換気量	快適・働きやすさ		⑪空気質環境	3.0	0.33	-	-	-
2 自然換気性能	快適・働きやすさ		⑪空気質環境	3.0	0.33	-	-	-
3 取り入れ外気への配慮	快適・働きやすさ		⑪空気質環境	3.0	0.33	-	-	-
4.3 運用管理				3.0	0.20	-	-	-
1 CO ₂ の監視	快適・働きやすさ		⑪空気質環境	3.0	0.50	-	-	-
2 喫煙の制御	快適・働きやすさ		⑪空気質環境	3.0	0.50	-	-	-
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	3.8
1 機能性				3.6	0.40	-	-	3.6
1.1 機能性・使いやすさ				3.3	0.40	-	-	-
1 広さ・収納性	快適・働きやすさ		⑫機能性	4.0	0.33	-	-	-
2 高度情報通信設備対応	快適・働きやすさ		⑫機能性	3.0	0.33	-	-	-
3 バリアフリー計画	快適・働きやすさ		⑫機能性	3.0	0.33	-	-	-
1.2 心理性・快適性				3.6	0.30	-	-	-
1 広さ感・景観	快適・働きやすさ		⑫機能性	5.0	0.33	-	-	-
2 リフレッシュスペース	快適・働きやすさ		⑫機能性	3.0	0.33	-	-	-
3 内装計画	快適・働きやすさ		⑫機能性	3.0	0.33	1.0	-	-
1.3 維持管理				4.0	0.30	-	-	-
1 維持管理に配慮した設計	快適・働きやすさ		⑫機能性	4.0	0.50	-	-	-
2 維持管理用機能の確保	快適・働きやすさ		⑫機能性	4.0	0.50	-	-	-
2 耐用性・信頼性				3.3	0.30	-	-	3.3
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50	-	-	-
1 耐震性(建物のこわれにくさ)	防災		⑬耐震・免震	3.0	0.80	-	-	-
2 免震・制震・制振性能	防災		⑬耐震・免震	3.0	0.20	-	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数				3.9	0.30	-	-	-
1 躯体材料の耐用年数	防災		⑭部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.20	-	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	防災		⑭部品・部材の耐用年数向上	4.0	0.20	-	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	防災		⑭部品・部材の耐用年数向上	5.0	0.10	-	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	防災		⑭部品・部材の耐用年数向上	4.0	0.10	-	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	防災		⑭部品・部材の耐用年数向上	5.0	0.20	-	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔	防災		⑭部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.20	-	-	-
2.4 信頼性				3.4	0.20	-	-	-
1 空調・換気設備	防災		⑮信頼性	3.0	0.20	-	-	-
2 給排水・衛生設備	防災		⑮信頼性	4.0	0.20	-	-	-
3 電気設備	防災		⑮信頼性	3.0	0.20	-	-	-
4 機械・配管支持方法	防災		⑮信頼性	4.0	0.20	-	-	-
5 通信・情報設備	防災		⑮信頼性	3.0	0.20	-	-	-
3 対応性・更新性				4.6	0.30	-	-	4.6
3.1 空間のゆとり				5.0	0.30	-	-	-

	1	階高のゆとり		5.0	0.60	-	-	-
	2	空間の形状・自由さ		5.0	0.40	-	-	-
	3.2	荷重のゆとり		5.0	0.30	-	-	-

	3.3 設備の更新性		4.0	0.40	-	-	-
	1	空調配管の更新性	4.0	0.20	-	-	-
	2	給排水管の更新性	3.0	0.20	-	-	-
	3	電気配線の更新性	5.0	0.10	-	-	-
	4	通信配線の更新性	5.0	0.10	-	-	-
	5	設備機器の更新性	5.0	0.20	-	-	-
	6	バックアップスペースの確保	3.0	0.20	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.40	-	-	3.9
1	生物環境の保全と創出		4.0	0.30	-	-	4.0
2	まちなみ・景観への配慮		5.0	0.40	-	-	5.0
3	地域性・アメニティへの配慮		2.5	0.30	-	-	2.5
	3.1	地域性への配慮、快適性の向上	2.0	0.50	-	-	-
	3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.50	-	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	4.0
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.2
1	建物外皮の熱負荷抑制		5.0	0.20	-	-	5.0
2	自然エネルギー利用		4.0	0.10	-	-	4.0
3	設備システムの高効率化		4.0	0.50	-	-	4.0
	集合住宅以外の評価		4.0	1.00	-	-	-
	集合住宅の評価		-	-	-	-	-
4	効率的運用		4.0	0.20	-	-	4.0
	集合住宅以外の評価		4.0	1.00	-	-	-
	4.1	モニタリング	5.0	0.50	-	-	-
	4.2	運用管理体制	3.0	0.50	-	-	-
	集合住宅の評価		-	-	-	-	-
	4.1	モニタリング	-	-	-	-	-
	4.2	運用管理体制	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	4.1
1	水資源保護		3.4	0.20	-	-	3.4
	1.1	節水	4.0	0.40	-	-	-
	1.2	雨水利用・雑排水等の利用	3.0	0.60	-	-	-
	1	雨水利用システム導入の有無	3.0	0.70	-	-	-
	2	雑排水等利用システム導入の有無	3.0	0.30	-	-	-
2	非再生性資源の使用量削減		4.5	0.60	-	-	4.5
	2.1	材料使用量の削減	4.0	0.10	-	-	-
	2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.20	-	-	-
	2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	5.0	0.20	-	-	-
	2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	5.0	0.20	-	-	-
	2.5	持続可能な森林から産出された木材	5.0	0.10	-	-	-
	2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	5.0	0.20	-	-	-
3	汚染物質含有材料の使用回避		3.9	0.20	-	-	3.9
	3.1	有害物質を含まない材料の使用	5.0	0.30	-	-	-
	3.2	フロン・ハロンの回避	3.5	0.70	-	-	-
	1	消火剤	-	-	-	-	-
	2	発泡剤(断熱材等)	4.0	0.50	-	-	-
	3	冷媒	3.0	0.50	-	-	-
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.8
1	地球温暖化への配慮		3.9	0.33	-	-	3.9
2	地域環境への配慮		4.1	0.33	-	-	4.1
	2.1	大気汚染防止	5.0	0.25	-	-	-
	2.2	温熱環境悪化の改善	4.0	0.50	-	-	-
	2.3	地域インフラへの負荷抑制	3.7	0.25	-	-	-
	1	雨水排水負荷低減	3.0	0.25	-	-	-
	2	汚水処理負荷抑制	3.0	0.25	-	-	-
	3	交通負荷抑制	5.0	0.25	-	-	-
	4	廃棄物処理負荷抑制	4.0	0.25	-	-	-
3	周辺環境への配慮		3.5	0.33	-	-	3.5
	3.1	騒音・振動・悪臭の防止	3.0	0.40	-	-	-
	1	騒音	3.0	1.00	-	-	-
	2	振動	-	-	-	-	-
	3	悪臭	-	-	-	-	-
	3.2	風害、砂塵、日照阻害の抑制	3.7	0.40	-	-	-
	1	風害の抑制	4.0	0.70	-	-	-
	2	砂塵の抑制	1.0	-	-	-	-
	3	日照阻害の抑制	3.0	0.30	-	-	-
	3.3	光害の抑制	4.4	0.20	-	-	-
	1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	5.0	0.70	-	-	-
	2	壁光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	3.0	0.30	-	-	-
上記以外の重点項目			-	-	-	-	-
<事務所用途>			-	-	-	-	-
知的生産性向上への取組			-	-	-	-	-
<住宅用途>			-	-	-	-	-
健康と安心			-	-	-	-	-
	1	化学汚染物質の対策	-	-	-	-	-
	2	適切な換気計画	-	-	-	-	-
	3	結露・カビ対策	-	-	-	-	-
	4	犯罪に備える(共用部の防犯対策)	-	-	-	-	-